

2023 AUTOBACS SUPER GT ROUND6 SUGO GT 300KM RACE

NISSAN MECHANIC CHALLENGE Race Report



日産栃木自動車大学校

この活動は下記のパートナー企業様に支えられています。



【GT300クラス レース結果】

2023.9.16(土)：予選日

天気：雨 → 曇り / 路面：ウェット → ドライ

予選 Q1のドライバーはオリベイラ選手が担当。Q1開始前に雨が降り、路面が濡れた状態で予選が開始されました。A グループに割り当てられた56号車は、100kg ものウェイトを積みながらも1分27秒908をマークし、Q1を7番手で突破しました。



予選 Q2のドライバーは名取選手が担当。路面もドライとなり、チームが見守る中、名取選手はコースを果敢に攻め1分18秒426をマークし、決勝レースは5番手グリッドからのスタートとなりました。

Q2を担当した名取選手は「最低限表彰台に上げられるようなレースにしていきたい」と自信をのぞかせました。



2023.9.17(日)：決勝日

天気：曇り / 路面：ドライ

空に雲が広がるものの残暑が厳しい9月、スポーツランド SUGO に大勢のモータースポーツファンが足を運びました。



13時35分、名取選手がスタートドライバーで決勝レースがスタート。レース序盤は、ライバル勢との攻防戦となりながらも、順調に順位を上げていく56号車でしたが、34周目、ドライバー交代のためにピットインをしようとした際にGT500車両と接触。右フロントにダメージを受けながらもコースに復帰しましたが、接触したGT500車両はホームストレートでのアクシデントにより、レースは37周目で一時中断となりました。レース再開後、56号車は2度のドライブスルーペナルティを受けて上位争いから脱落。最後まで力走を続けた56号車は、ポイント圏外の11位でゴールしましたが、レース後の車検で他車が失格となったため、10位に繰り上がり、貴重な1ポイントを獲得。シリーズチャンピオンに望みをつなぎました。

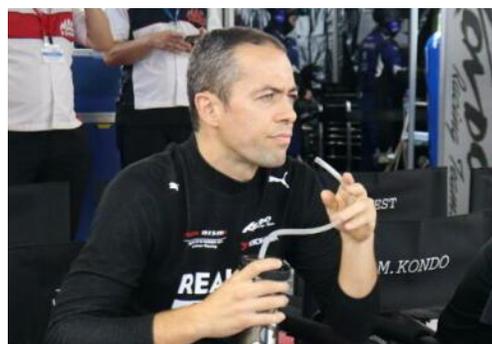


【近藤真彦監督インタビュー】



- Q. 今回、初めてメカニックチャレンジに参加する学生や、今後参加してみたい学生も多いと思います。そのような学生にどのような志をもって参加してほしいですか？
- A. レース場という現場で何かひとつ持って帰ってもらいたいです。それは技術でも精神面でもいいので、ただただ参加しているだけじゃなくて家に帰ってほんの10秒くらいでも「これは自分の将来で何かあったときに役に立つな」と思うようなものを何か1つ持って帰ってもらえればうれしいです。

【56号車ドライバーインタビュー】



Q. 決勝は5番手スタートとなりましたが、お互いどんなコミュニケーションを取り、どのようなレース結果にしたいですか？

～名取 鉄平選手～

A. 予選を走ってみて、結構天候も荒れて難しい予選ではありましたが、100kg積んだなかではいい順位を獲得できました。今回は、予選が通るか通らないか結構ギリギリなラインで、まだレースのセッティングがでていないので、もう少し明日オリベイラ選手と一緒にセッティングをして、決勝で少しでも順位を上げていきたいなと思います。

～JP・オリベイラ選手～

A. 予選で5番手を獲得できたことは、明日のレースに向けてとてもいい結果だと思います。目標はできるだけ多くのポイントを獲得することなので、明日完璧なレースができるように名取選手やチームと戦略について話し合うつもりです。明日はいい結果を出し、できるだけ多くのポイントを獲得できるように頑張りたいです。

【日産販売店 TS インタビュー】

岩手日産自動車株式会社

後藤 紘大さん(栃木校第20期卒業生)



私は元々レースに興味があり、今回そこに携わることができるということで応募をさせていただきました。今回参加してみて、私たちの仕事はお客様に安全に車に乗ってもらうことが前提となるのですが、メカニックの方達もドライバーの安全を守ることが大前提となる仕事で考えていることは一緒ということが分かり、自分の仕事も一つ一つ責任と精度を求めてやっていきたいと思い直せました。日産には魅力的な車がたくさんあります。学生の皆さんにはこれからも日産をずっと好きでいてもらって、メーカーの力になってもらえればなと思っています。

福島日産自動車株式会社

赤石澤 竜彦さん(栃木校第31期卒業生)



今回、福島日産から参加できるということだったので、ぜひ入りたいなと思い応募しました。今回参加してみて整備作業の様子など普通にレースを見に行くだけでは味わえない部分というのがかなりあり、とても勉強になりました。学生の皆さんには車に興味を持ってもらうというのが1番大事かなと思います。どんな分野に入るとしても興味を持って取り組むだけでかなりの内容が入ってくると思うし、伸びることに繋がるので、ぜひ好きという気持ちを突き詰めてもらえればいいかなと思います。

日産プリンス秋田販売株式会社



佐々木 勇介さん(栃木校第3 2期卒業生)

私は前々からこの活動のことは聞いていたのですが、販売会社では順番待ちができていて、やっと参加する事ができました。今回参加してみて、学校で勉強しているところがほとんど活用されているなと感じました。学生の皆さんは、国家資格の他に日産3級や2級を取得して卒業すると思うのですが、就職してからもそれぞれの資格の内容を忘れない限り日産圏のどこへいっても通用すると思うので、取得できるのであれば、ぜひ上の資格にチャレンジしてみたいと思います。

【参加学生インタビュー】

日産栃木自動車大学校

学生スタッフ総リーダー 大澤 謙世 (一級自動車工学科4年)



今回は学生スタッフの総リーダーを務めさせていただきました。昨年のもてぎ戦で1度経験させていただいたので、ある程度のノウハウを持って今回の活動に参加することができました。初参加の学生が多かったので、より全体を見て指示を出すことを心掛けました。その結果、各班リーダーや先生方のご協力もあり大きなトラブルもなく無事に終わることができました。また、今回の活動を通して臨機応変な対応力はどこの現場に行っても必要不可欠と改めて感じました。メカニックチャレンジの活動で経験させていただいた様々なことを今後の生活にフィードバックして、自分自身や周りの成長に繋げていきたいと思います。

学生スタッフ副リーダー 篠原 弘行（一級自動車工学科3年）



私は「統率力」の重要性を学びました。副リーダーとして学生をまとめる仕事をさせていただきましたが、不安や不慣れな点も多く、自信のなさから的確な指示が出せないことがありました。何事にも自信を持って対応できるように、この貴重な経験を糧にして今後とも精進したいと思います。

ピットスタッフ 野沢 龍馬（一級自動車工学科3年）



この活動で学んだことは、迅速かつ正確な整備です。レースでは何が起こるかわからない状況で、メカニックの方々は準備をしなくてはなりません。その中でドライバーさんからの情報や天候などから、タイヤの準備や破損したパーツの修復を迅速かつ正確に行っていました。

通常の整備なら、レースほど急ぐ必要はありませんが、迅速かつ正確に対応すればお客様に喜んでいただけると思います。この経験を活かし、今後も気を抜かずに真剣に学びたいと思います。

ホスピタリティエリアスタッフ 高橋 翔星（一級自動車工学科 1年）



参加して学んだことは、積極的に動くことです。お客様対応をする際、どのように動けばいいか迷っていたときに先輩方に優しく教えていただいたことで自信を持って行動することができました。予選日よりも決勝日のほうがお客様の来場数が多くとても大変でしたが、お客様対応の仕方、班員との情報交換の仕方や時間配分を考える力が身についたと思いました。

【広報活動を振り返って】

広報リーダー 小野寺 紀（一級自動車工学科 2年）

今回の活動では広報メンバーが一新され、初めて広報として参加する人がほとんどでした。広報の仕事が多い中でも事前に話し合い、当日の動きを決めておくことで大きなトラブルもなく無事に活動を終えることができました。

KONDO Racing のチームの皆様やスポンサー様など、沢山の皆様のご協力のおかげで、私たちは非常に貴重な経験をし、多くのことを学ぶことができました。このことへの感謝を忘れずに、これからの成長に活かせるように頑張っていきます。

【広報メンバー】

小野寺 紀
山口 竜河
秋葉 翔大
岡田 拓海

